

平成30年度宗像市男女共同参画推進センター運営委員会議事録

日時 平成31年1月28日(月)

10時00分～11時40分

場所 メイトム宗像 203会議室

運営委員会委員(50音順)

出欠	名前	出欠	名前	出欠	名前	出欠	名前
○	今西 啓之 委員	○	木村 直喜 委員	○	古賀 千種 委員	○	後藤 康広 委員
○	佐藤まさよ 委員	○	塩川 裕子 委員	○	高木 里美 委員	○	真嶋 洋子 委員

事務局

:市男女共同参画推進課:白木・萩野・飛永・沖、男女共同参画推進センター:水上、近藤
(○委員●センター及び市)

1 はじめのあいさつ

2 委員自己紹介

3 議事

(1) 男女共同参画推進センター事業の全体像について(資料1～3にて説明)

○宗像市市民活動交流館条例、第3章宗像市男女共同参画推進センター(利用の許可)第17条2(3)「その他センターの設置の目的に反すると認められるとき」は利用を許可しないとあるが、今までに申し込みを断ったことはあるのか。

●ない。

(2) 平成29年度事業概要について(平成29年度事業概要にて説明)

☆質疑なし

(3) 平成30年度進捗状況及び平成31年度実施予定について(資料4にて説明)

○センターで企画されている講座など時代にあった内容となっているが、資料4、5の1～3の事業は比較できるのか。

●資料4、5の1～3は市が状況を把握し、実施する事業でありセンター事業ではない。また、今年度は取組めていない。

○以前、民生委員の仕事を受けた時、民生委員の集まりで男女共同参画についての講座を受けた。民生委員は家庭の中に入るのが仕事なので、その方達へ男女共同参画の知識を持ってもらうとより効果的ではないか。民生委員は11月が入れ替え時期である。

○市職員の研修は大切である。特に新人職員への指導をきちんと行えば、職員の間違いも減ると思われる。管理職登用数に関しても、市女性職員が負担の大きい管理職を拒み現状に甘んじているのは市民に対して失礼である。女性職員にもスキルアップして欲しい。その為にも職場環境の見直しが必要だと思う。

女性職員は管理職の男性をみて負担が大きいと思うのだろうが、市役所が先頭に立ちロールモデルを示さなければならないので、その意識を持ってもらいたい。

●民生委員への研修はとてもよいこと。民生委員を管轄している健康課へ打診する。

今は特定事業主(地方自治体等)に対する法律もあるので、各種研修などあり方が変わってきている。市でも職員に対しての研修を人事課が実施している。

●登用率に関しても計画に基づき計画的に行われている。係長級の3割は女性職員であり、毎年少しずつ増えている。採用比率も女性が増えている。

○その30%の中から更に上を目指していただきたい。

- 運営委員会での議論と懇話会での議論は違うのではないか。その境目が曖昧に思われる。プランは懇話会で議論すべきものであり、運営委員会と懇話会の役割は違う。市とセンターゆいの役割も曖昧になっている。資料4、5の1～3の担当が市であるなら、ここに掲載する必要はないのでは。また、平成 29 年度事業概要(※以降、事業概要と称す) 15P「こころと生き方の相談」はセンターとは現在関係ないのに事業報告に上がっているのはおかしいのではないか。14P(相談事業)イ、ウもセンターから離れている。
- 皆さんへ知っていただきたいとの考えで掲載している。しかし、ご指摘の通り運営委員会の資料に掲載するのは違う。明確な仕分けをして分かりやすくする必要がある。
- 平成 29 年度事業概要 14P ウの相談員とはどのような方なのか。
- 昨年度から臨床心理士の資格を有する職員が男女共同参画推進課直属に配置されている。「こころと生き方の相談」は広く一般的な相談も受けているが、相談員は行政的な支援が必要な人を中心に、関係機関と連携して業務を行っている。

(4) 平成32年度に向けた事業計画立案について

- (今後のスケジュール) 4月頃:市からセンターへ事業提案の検討
6月頃:平成31年度事業企画会議
7月頃:事業決定、講座会場確保等

- 共催事業について、事業一覧に例示してある内容はとても良い。特に5～7はPTAとの共催にとっても良い内容である。PTA は毎年研修を行っているので、お薦め講座などを学校へ届けてもらえるとありがたい。今の保護者は孤立している人や他人と比べて不安を抱えている人が多い。有効に活用できると思う。
- 共催の講座に関しては、子ども育成課が主体で行っている家庭教育学級の説明会の中で「講師料半額補助があり、人集めと会場の手配のみ」で実施できるとPRしている。今年度コミュニティでも3回の共催事業を実施した。未実施のコミュニティでも実施してもらえよう男女共同参画推進課と一緒に取り組んでいく。
- 子育て支援の講座は、母親だけ父親だけの講座ではなく、家族みんなで参加するような講座をお願いしたい。例えば家事、子育ての時間配分などアドバイスの講座があってもよいのでは。例えば釣りやタケノコ堀りなどの屋外活動後に調理実習をするなど、休日の日を利用し、参加して良かったと思えるような講座など。
- 子育て支援部門、男性の自立部門、ジェンダー部門など大枠は別だが、ジャンルはそれぞれ違うところに記載しているが様々な取り組みを実施している。
- 管理職を拒む背景の一つに、家事は女性がするものという考えがあり、夫婦が協力し合える家庭づくりの支援も必要だと思う。
- 夫婦が一緒に取り組むには日ごろのコミュニケーションが大切である。我慢してしまう女性が多い。自分がやりたい事を相手に伝える工夫、努力が必要であり家庭内のコミュニケーションを学べる場があるとよい。
男性も仕事がある時はよいが、退職後に自分は何がしたいのか分からない人も多い。男性も女性も互いの気持ちを理解しあえる場があれば良い。
- その内容については 31 年度事業計画で2講座計画している。今年度事業の「幸せのコミュニケーション」講座には 30 名の参加があった。女性が殆どではあるが幅広い年齢の参加があった。子育て世代に限定せず、全世代の気付きを促すよう行っている。
- 福津市では「家族会議」「夫婦会議」を取り入れているようだ。コミュニケーション不足を解消するためにも、将来を見据えながら身近な事まで夫婦で話し合っていないといけない。
- 現在、センターは市民のため、社会のための場になっているのか。アンケートでは見えない意見として、窓口対応や事業内容など具体的な意見があれば伺いたい。
- 小さなきっかけがないと、なかなか一步を踏み出さない。

- 講座案内のチラシなど企業へ配布しているのか。男性が集まる場にチラシを置いているのか。
- 仕事をしている男性は仕事でいっぱいであり、退職後の事まで考える余裕はないようだ。
- 子育てサロンには男性の参加も増えている。男性の意識も高くなってきている。子育てサロンにチラシを置いたら広がるのではないか。
男性のトイレにおむつ交換台がない。おむつ交換は女性がするものと位置づけられている。
- チラシに関しては子ども支援センターにも置いている。しかし、女性が多いことから女性向けの講座案内チラシを置いていた。今後は男性向けの講座案内チラシも置いてもらえるよう担当課と相談していく。
- センターのチラシは工夫されていてとても良い。もっと広く目につきやすく、手に取ってもらえるような工夫が必要。人は思いもよらない場所に置いてあると手に取りやすいものだ。チラシの置き場を工夫すると良いのでは。情報を手に取りやすい SNS の活用は、特に若い世代には効果的なのではないか。
- 現在、市内のスーパーや JR 駅(赤間、東郷)、西鉄バス赤間営業所に掲示している。他の場所も検討する。フェイスブック等の SNS はもちろんチラシにも QR コードをつけ情報にアクセスしやすいよう工夫している。市のホームページにも掲載している。参加者の中にはホームページや東郷駅の電子掲示板を見て申し込んだ人も増えてきている。少しずつ効果が出ている。
- 講座など現状の問題を捉えて勉強されている。内容が良いのだからもっと知ってもらう工夫をお願いしたい。知ると勉強したくなるものだ。
- 団塊の世代に対し、主婦の世界を理解させるのは難しい。夫は仕事、妻は家事をやるのが当然で過ごしてきた世代の男性が、定年後はそれまでの経験が役に立たず何をどうすればよいのか分からないのが現状。企業によっては定年前に退職後の生活に向けた研修を実施するところもある。
- 男性が1~2時間の講座で学んだことを実生活に反映させるのは難しい。終日なり継続なりして反復訓練する必要がある。父親が子どもの世話を全て行うような終日イベントだと、多様な場面での父親の育児参加ができるようになるのでは。
- おじいさんの知恵に子どもは興味を示す。
- 男性の料理教室に参加しても、家では作っていない人が多い。より実践的な講座があっても良い。1年通して子育てに深く関わる講座があってもよい。
- まずは一步踏み出す「きっかけ」が大切
- 啓発はメイトムの健診でも行っているのか。
- 健診の時期に講座があればチラシを置いている。
- 3ヶ月、6ヶ月健診には少数だが男性も来ている。男性への啓発は啓発の場を見極めなければいけない。
市女性職員が管理職を敬遠するのは、忙しくなるからというよりは管理職の責任の重さが原因ではないかと思う。
- 女性が管理職に辿り着くまでに家事の大変さでスキルアップの機会を逃すなどして、断念してしまうのでは。
- アンケートなどを見ると、市女性職員には「責任の重い仕事に就きたくない」という意見が多いのは事実である。職員の意識改革に取り組む必要性を感じている。
- 勉強したことは必ず役に立つ。家庭に埋没せず勉強して管理職を目指してほしい。
- 赤間地区コミュニティの男女共同参画部会の活動も10年になる。その部会には7ヶ月の赤ちゃんを連れて参加している人がいる。また、部会の役員を決めるにあたり、夫婦での参加を希望する人も出てきた。男女共同参画の活動が少しずつ形になって来ている。

(5) 男女共同参画推進センターの今後のあり方について

○今後の在り方を検討する為には、財政面の検討も必要なのではないか。総額は事業概要 6P に示されているが、この資料だけでは各事業の費用がわからない。

●次回は予算資料を準備する。

4 事務連絡

・会議録について

要点筆記で作成、後日郵送

・報酬・費用弁償について

後日、銀行振込みで支払い

・H31年度委員について(団体推薦・有識者・市民公募等)

議事録署名人 宗像市男女共同参画推進センター運営委員会 委員

高木里美 